

立場の違いを超えて協働することの意義と課題

～子育てフェスタ in あいちの取り組みを通して（２）～

坂 鏡子

(知多市児童センター)

はじめに

「子育てフェスタ」は、ボランティア活動団体、NPO関係と行政関係など31団体が参加し、展示および分科会（10分科会）を実施した。

当日、参加者に、感想・意見についてアンケートを実施した。また、分科会の担当実行委員は実施後に、企画趣旨、実践報告者の報告内容、参加者間の討議内容、担当者の感想の4項目について記載した「報告集」を作成した。

それらの内容より、(1)それぞれの立場（市民・行政）における現状、(2)さまざまな立場で協働することの意義(3)効果的な協働関係を作るための工夫についての内容を抜粋・整理し、協働することの意義と課題について考察を加えた。

1. それぞれの立場における現状

<行政関係者>

- (1)子育て支援事業や活動に対する取り組みの必要性や実施意欲に温度差が感じられる。
- (2)行政機関や部署間で、情報の共有化がなく、それぞれが単独で事業を実施していることが多い。
- (3)関係機関間の「連絡会」は開催されているが、それぞれの活動報告に終止してしまうことが多い。
- (4)ボランティアや、NPO、子育てサークルなど市民活動の情報が得られにくい。

<市民活動関係者>

- (1)スタッフの人数、活動場所の確保、財政基盤の弱さなどがあり、事業としての採算性や継続性に多くの課題がある。
- (2)母親たちの主体的な活動を育てていくことや、活動に広がりをもたせていくこと等、具体的な方法がわからない。
- (3)子育てサークルを作りたいが、そのためにどうしたらよいか等の具体的な情報が得られない。
- (4)回覧坂・市報などは、マンション等にはまわらず、必要な人に情報が届かない現状がある。

2. 協働することの意義について

- (1)さまざまな子育て支援の取り組みが幅広くわかる。
*保健・医療・保育・労働など、行政の支援。
*サークル関連や、ボランティア・NPO等。
*それぞれの市町村における取り組みの特徴
- (2)ばらばら（単体）ではなく、協力して大きな力になっていく。
*各団体と行政機関との幅広い情報交換となる。
*パンフレット・展示など、それぞれの特色がでる工夫。
*はじめてきた人にも分かりやすい情報。
*手作りの良さ・温かさ。
- (3)さまざまな立場の人の実践や考え方を知る機会となる。
*保育士、保健師、民生委員、社協、相談員、ボランティア、NPOなど、さまざまな立場の人達の取り組みや考え方について、幅広く意見交換ができた。
*立場は違っても、多くの人が同じように悩みながらも一生懸命に取り組んでいることが分かった。
- (4)参考になった内容を生かし、自分の活動を活性化させる。
*他職種、他市町村の取り組みの良さを生かしたい。
*資料などを参考にして、現場でよく話し合いたい。
- (5)援助者として、自分自身の考え方の幅が広がる。
*子育てニーズを知ろうとする感性を磨きたい。
*幅広い見方や考え方を実際に見て、刺激になった。
*中・高校生を対象にした支援の大切さを学んだ。
*具体的な実践の話が聞けて、何か自分でできそうなことから始めたいと前向きになった。
- (6)取り組みの広がりや継続への期待がもてる。
*毎年、定期的な開催の必要性を感じる。
*今後は自分もスタッフとして参加したい。
*企業にも参加してもらいたい。
*もっと幅広の参加の呼びかけをし発展に期待。

3. 効果的な協働関係を作るための工夫

(1)地域にどんな子育てニーズがあるかを把握し、子育て当事者の立場に立った支援を考える。

＊子育ての当事者（マタニティも含む）同士が仲間と出会い、共感し合える場の確保、自分自身をゆっくり振り返る時間の保障、先輩ママからのサポートの機会の創設。

＊母親に喜びと自信を持たせるような支援、父親の育児参加の啓蒙。

＊中高生頃の子ども達が日常的に乳幼児と触れ合える環境づくり等、親になる前のからの支援。

＊自分の気持ちを安心して語れる場（電話相談も含む）の保障

＊育児と仕事が両立できるように、既存の制度の有効活用、多様化した形態のサポート（母親の心理負担状況にも対応できるように）の拡大

＊育児不安を軽減し、危機的な状況に陥るのを予防していく地域ネットワークの取り組み強化

(2)子育て当事者・市民活動・行政担当者などが集まる「よりオープンな連絡会」を開催し、情報交換を積み重ねる。

＊行政機関の集まりに市民が入っていくとよい。

＊地域の中での横のつながりが大切。地道な取り組みを通した確認をしていくことで、お互いが分かり合える。

＊それぞれの活動内容（場所・方法・プログラム等）、継続して行く上での工夫や課題、活動意義を確認しあう。幅広い情報を得ることで、支援内容が深められる。

(3) 情報を交換し協力する中で、市民と行政のすみわけ（役割分担）を確認し合う。

＊地域に存在する問題を共有し、解決に向けてそれぞれのもつ力を合わせる。

＊市民の主体的な活動を育てていくための方策について考える。

＊地域にある社会資源、整備されている制度が有効活用できるようにする。

＊行政サービスで不足した点を、市民活動がカバーする体制をつくる。

＊一つひとつ具体的な確認して、お互いのすみわけを整理して行く必要がある。

(4)役割を分担して、地域の中で自立していくプロセスを支える。

＊幅広い情報をもっていないと個々のニーズに即した

支援ができない。

＊個々のケースについての援助方針の確認や、それぞれの役割を確認して、子どもの命を守る援助を行う。

＊専門職による個別の援助から、地域の仲間の中へ参加していけるようにと、自立へのプロセスに添って援助が移行していく。

(5)さまざまな情報が集まり、流れて行くような「結節点」をつくっていく。

＊子育てサークルの情報が分かるとよい。

＊孤立した母親達をつなげるメンタルな情報。

＊有料か無料か、広告の取扱い、掲載した情報の責任の所在など、市民と行政の連携にむけて、整理すべきことはたくさんある。

(6)市民活動と行政をつなぐパイプ役の必要性

＊行政と市民活動のパイプ役は誰が担うのか。民生児童委員、社会福祉協議会の役割の明確化。

＊個々のケースをマネジメントしていくキーパーソンについて確認し合っていく必要がある。

おわりに

当フェスタに参加した各機関・市民団体の現場では、熱心に子育て支援の取り組みが模索されている実態が共有できた。また、それぞれが単体で対応することの限界性を感じており、ネットワークを構築することの必要性が、どの分科会でも論じられた。

市民活動、行政機関間において、情報が途切れがちになっている現状の中で、それぞれの立場の違いを超えて協働することにより、地域に存在する多様なニーズを的確に知ることになる。そのために必要な支援の方向性や課題についても共有することができる。

また、お互いのもつ情報の共有化を通して、一人ひとりが考え方の視野を広げ、各々の支援内容がより充実したものになっていく。

こうしたそれぞれのもつ力を持ち寄ることの積み重ねにより、支援を必要としている人に、必要な支援が届けられる、重層的・有機的に機能するネットワークが育っていくであろう。

今回の取り組みは、その第一歩としての大きな意味をもつものであった。

今後もさらに幅広い立場の参加を促し、取り組みを継続していくことにより、今回得られた協働関係を築く手がかりについて、多角的・多面的に見つめ直し、一つずつ確認しあい、より具体性のあるものとして共有していくことが課題となる。